

愛亀グループ参加者記録一覧

西山社長	4時間56分37秒
芳之内 隆聖 道路事業部施工管理課	4時間34分29秒
宮崎 暢之 道路管路営業部	3時間23分30秒
野村 佳彦 管理本部	4時間58分57秒
木野 昭範 道路事業部松山事務所	5時間52分38秒



2月12日(日)に行われた、愛媛マラソン。参加された方、大変お疲れ様でした。

Grp 第55回愛媛マラソン



**春分** 第33号  
平成29年3月発行

各社・各部署は掲載事項がありましたら、総務部までお送り下さい。  
TEL089-921-3030  
FAX089-913-7432  
k.hayase@ikee.jp (担当 早瀬)

感想

管理本部 野村佳彦

2月12日(日)愛媛マラソンの日がやってきました。私は2年連続2回目の参加です。

数日前まで雪が降るかもといった天候の心配がありました。本番は天候・体調ともにコンディションも良く、言い訳できないくらいの好条件でした。ほとんどの方は前日に受付を済ませていたのか、当日でも混雑することなくスムーズに受付を済ませ城山公園内に向かいます。

スタート1時間前ギリギリまで服を着ていようと思っていたのですが、比較的暖かかったので着替えを済ませ、荷物を預けたらスタートまで軽くアップをしながらかちました。スタート30分前ブロック分けされたスタート地点にランナーが集まってきました。スタート3分前ワクワクと緊張感が増えませんが、午前10時スタートしました。しかし最後尾からのスタートだったのではまったく前には進みません。

約15分後、やっと進み始めましたが、前が詰まっているためなかなかペースが上がりません。歩くのと変わらないペースで2km地点辺りまで来たとき、スタート前にトイレに行っていないことを思い出して、最初の仮設トイレに駆け込みました。これだけゆっくりペースならちよつと

くらいトイレに行っても問題ないだろうと、あまりにもゆっくりなペースにイライラして、ほぼ最後尾でスタートしていることを忘れてしまっていたのです。当然、トイレから出てきたときには完全に最後尾で、ほとんど人がいませんでした。

さすがにこれはまずいと、自分の出せる最高のペースで走り出し、レース後半から足が動かなくなることを予感しながらも、このままいけるとここまで全力で走ろう。後半は前半の貯金で歩けばいいと開き直って走り続けました。

折り返し地点まではかなり良いペースで走れたのですが、折り返しを越えた辺りから案の定ペースがガクッと落ち、30km地点では足が止まってしまいました。どんなにゆっくりでもいいから歩かずに走り続けよう決めていた心が、一度立ち止まってしまったからは完全に折れてしまい、もう記録なんてどうでもいいと諦めて歩きながらゴールを目指しました。

ゴールを目指すランナーに、沿道から大勢の方が声援を送ってくれていますが、もう声援を聞いても走る気力が湧いてきません。それまで我慢していた給水所に置いてあるタルトや坊ちゃん団子を頬張ります。

すると、水とお菓子でお腹がいっぱいになってきた35km地点辺りで、後から5時間のペースランナーが近付いて来ました。時計も持たずに走っていた私はまさか自分が5時間を切っていると思っていませんでした。去年の記録は5時間50分で制限時間ギリギリのタイムだったので、これはなんとしても5時間切つてやろうと、最後の気力を振り絞って再び走り始めました。

すると不思議なことに、先程までは何も感じなかった沿道の方達の応援が心に染み渡ります。諦めてしまった心には響かなかった言葉が、頑張ろうと決めた瞬間に大きな力となり、足が前に進みました。4時間58分でゴール。決して自慢できるタイムではありませんが、去年より約1時間速いタイムでゴールできたことに満足すると共に、来年は更に良いタイムを目指して今日から練習を始めようと思います。

8 IPS アジアに架けるインフラの町産者 大分大学 カンボジア事務所訪問

大分大学の海外に興味のある学生が、学生自らアポイントを取り、会社訪問をしていくという企画があり、その短期海外留学体験の一環として、学生が愛亀に問い合わせをしてきたことから、留学体験先として協力させていただきました。

2月23日、愛亀のJICAとの普及実証事業のエクセル工場見学、及びIPSの事務所見学に学生11名、先生1名がいっしょに行きました。まず、IPSの事務所見学でカンボジアのインフラ事情の説明、JICAのエクセルプロジェクトの経緯、これからのIPSの海外展開の展望などの説明をしました。

各国の援助で主なインフラを整備しているカンボジアの現状などを説明し、学生たちは日本とのインフラ事情との違いに大変驚いている様子でした。その後工場見学へと移動いたしました。工場見学ではJICA隊員として工場建設に当たっている玉井、館野、村田、協力コンサルタントの弓田様、小野様にも協力いただき、エクセルの製造過程の説明、製造過程の見学、できたエクセルの袋詰め作業を体験していただきました。



最後に、施工現場へ移動し、エクセルのポットホルルの簡易補修施工を体験いただき、愛亀のカンボジア事業、及びIPSの会社訪問を終了いたしました。見学後、学生からは「大分大学の学生からは、海外事業や国際協力といったも具体的にイメージができず、ほんやりとしていたものが、実際にカンボジアの愛亀の工場見学をしたことで、これまでに以上に海外への興味がわき、具体的に将来像を描けるようになりそうです。大変いい機会、刺激になりました。」との回答をいただきました。今回の見学で、大分大学の学生様の就職活動の一助となれば幸いです。

〈海外事業室／丸岡茂星〉



まつやま  
農林水産まつり

2月18、19日にアイテムえひめで開催された「まつやま農林水産まつり」にあぐりが出展しました。

会場は大賑わいで、新鮮なお野菜が買い得とあって、あぐりのブースにもたくさんの方が集まっていました。2日間で用意したお野菜は見事完売。スタッフは大忙しでしたが、嬉しい限りです。



あぐりの  
おいしい野菜を  
紹介できたカメ〜!



モザンビーク大使来社

2月28日、モザンビーク大使館よりモライス大使らが愛亀に来社されました。今回の愛媛県訪問を機に、県内企業との親交を図り、情報交換を行うという目的の一環で視察に來られました。

愛亀本社で様々な意見交換を行いました。愛亀では今年の4月よりモザンビーク人のマコメさんの採用を予定していることもあり、親近感を抱いてくださっているようにみうけられました。



モライス大使は2008年5月にも、当時の大統領ゲブーザ氏と愛亀を視察されたことがあり、その際に愛亀の試みに感銘を受けたと話してくださいました。

しかし、前回の訪問では、特定の商品、技術的を絞らず、全体的な説明にとどまっていた。そこで、今回は是非とも、具体的に道路や農業の技術をモザンビークに紹介していくことを検討してほしい、モザンビーク大使館にて今後の展開について詳しく話し合い、ご提案いただきました。



その後、松山事業本部へ移動し、あぐりの剪定枝リサイクルとエクセルの施工の様子を見学していただきました。リリオ大学のマテウス農学部長も同行されていたこともあり、リサイクルのシステムに関し、熱心に質問されていました。エクセルの施工に関しては、モライス大使が前回の訪問の折、特に印象に残っていた技術であったらしく、今回も非常に高い関心を示されました。

平成29年度 事故抑止目標

絶対に達成しよう!

アンダー  
15

安全に!

▼エクセルパッチ施工の見学の様子



▲剪定枝リサイクルの説明を受ける皆さん